

哲学歴史学科

世界史コース



世界史コースとは

歴史学は、人類の登場から現在に至るまでの人間の営みと経緯を、時間軸を意識しながら解明し、解釈することを目指す学問分野です。世界史コースには、フランスやドイツ、東地中海、中央アジア、中国など様々な地域を専門とする七名の教員がおり、色々な地域について詳しく学ぶことができるのが魅力です。今とは違う時代、日本とは違う地域に触れることは、対象とする異文化への理解を深めるだけでなく、我々が当たり前と思うことを見直し、現代の諸問題をより深く理解することにつながります。異文化に関心がある人はもちろん、日本を含め現在の世界に違和感や疑問を持ち、これでいいのか、なぜこうなのか、もっと違った形はないのかと広い視野で考えてみたい人にもおすすめです。

北村先生の研究

二百年前のドイツの住宅では、現在ならあたり前にある、水道管、ガス管、下水管、電線などの仕掛けはありません。当時の人たちは水、薪、ランプ用の油、ローソクなどを自分で運ぶ必要がありました。しかも、三階建て四階建ての集合住宅も建てられ、エレベーターはありませんから、上の階の住民にはこのような物品の運搬はかなり大変であったでしょう。逆に、残飯や糞尿は窓から捨てていたようです。そうしたものは、路上で放し飼いの家畜が食べたり、馬車、荷車、人の往来によって雲散霧消したりしたようです。もちろんドイツの人たちは、今はそんな生活をしていません。人々の日常生活がどのように、そしてなぜ変化したのかを、一九世紀から二〇世紀にかけてのドイツについて研究しています。



教授
きたむら まさふみ
北村 昌史 先生



3年生
こばやし たく
小林 巧 さん

世界史コースを選んだ理由

元々、ミリタリーを題材にした映画やら漫画が好きで、いろいろな作品を観ていくうちに第二次世界大戦史について特に興味を抱くようになりました。第二次世界大戦史をより理解するために、より専門的なことが学べる世界史コースを選択しました。

面白いと思った専門科目

「科目名」西洋史演習
この授業では、史料や研究などの扱い方や論文の執筆方法を学びます。大学ならではの、専門的な世界史の学び方、研究方法を学習することができ、非常に面白い授業です。この他にも英語や第二外国語で書かれた史料の読解を行う授業もあり、世界史について様々なことが学べます。

世界史コースの魅力

世界史コースの魅力は、世界史についてより深い理解が得られることです。高校までの歴史とは違い、大学での歴史学は単純に用語を覚えるのではなく、なぜその出来事が起きたのか、本当にその出来事があったのかなど、様々なことを考えます。このように、今まで習ってきた歴史学とは異なる、新たな世界史の見方を得られることが魅力です。

卒論テーマ例

- ・14世紀初頭南仏の異端審問から見る民衆とカタリ派の関係について—『判決集』に現れるトゥールーズ市で裁かれた被告人を事例に—
- ・古典期アテナイにおける女性の市民権とパンアテナイア祭・テスモフォリア祭
- ・オスマン帝国 1582年「王の祝祭」の食事におけるスルタンの権威の発揚について

世界史コースにとっての『とびら』とは？



とびらといえば、先日完結した漫画『進撃の巨人』、壁に設けられたとびらが超大型巨人に蹴破られたところから物語がはじまります。この作品では、ネタバレになるのであまり語ることはできませんが、物語のそここに世界の歴史の知識がうまく取り込まれています。たとえば、人類を捕食する巨人から身を守るために巨大な壁で街を囲みます。頑強な壁を立てて、敵の侵入を防ぐのは、中国史やヨーロッパ中世史では、当たり前のように出てきます。皆さんも今は『進撃の巨人』だけではなく、いろいろな漫画、アニメ、小説、映画などをぞいてみてください。世界史コースでは、学びたい地域や国の外国語がとびらの役割を果たします。といっても英語以外の外国語の学習は大学に入ってからで結構です。そうして調べた外国の歴史というとびらを通ると、皆さんが現在もっている価値観とは異なった世界が広がっていくでしょう。(文・北村先生)